

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 17 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 18 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 19 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 20 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 31 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 32 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 33 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 34 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 35 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 46 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 47 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 48 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 49 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 50 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 61 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 62 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 63 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 64 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 65 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 76 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 77 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 78 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 79 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 80 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第91回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第92回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第93回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第94回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第95回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 106 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 107 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 108 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 109 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 110 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 121 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 122 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 123 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 124 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 125 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 136 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 137 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 138 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 139 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 140 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 151 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 152 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 153 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 154 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 155 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式 						
<p>《授業外における学習方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備 						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 166 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 167 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 168 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 169 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 170 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第181回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第182回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第183回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第184回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第185回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 196 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 197 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 198 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 199 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 200 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 211 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 212 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 213 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 214 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 215 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 226 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 227 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 228 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 229 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 230 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマに おける 授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第241回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第242回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第243回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第244回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第245回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

